

隣隣サポーター養成「地域の支え合い活動応援講座」修了

7月12・16・28日の3日間、地域の支え合い活動応援講座が開かれ、全科目を受講した11人の方へ修了証が交付されました。

この講座は、新たな地域の支え合いの活動の担い手「隣隣サポーター」の活動に必要な知識を、ホームヘルパーや臨床心理士、消防署などから学びました。

隣隣サポーターは、個々の持つ力を生かして、高齢者へごみ出しなどの軽度な生活支援や地域の居場所づくりなどを行います。受講者は支え合いの地域を目指し自分の力を生かして活動したいと熱心に受講していました。



訓練 災害時に備え、避難所開設・運営訓練

7月31日、船引中学校体育館で災害時を想定した避難所開設・運営訓練が行われ、船引地区の行政区長や市職員など約40人が参加しました。

感染症対策を踏まえた、発熱者用テントの組み立て方や避難所開設の手順、避難所内でのゾーンニング、受付手順などの確認を行いました。

また、当日は船引高等学校で今年度「防災」をテーマに活動を行っている、船高アクティブラーダー育成プロジェクトに所属する生徒も参加し、避難所の開設や運営を体験しました。



猪狩俊郎人材育成基金 アメリカの高校に留学する学生を支援

8月2日、田村市猪狩俊郎人材育成基金制度の助成金交付式が市役所で行われ、アメリカの高校に留学する安積高等学校普通科3年松本紗夜さん（船引町）へ市長が助成金を手渡しました。

交付式に母の真由美さんと出席した紗夜さんは、同月4日に日本を出国し、カンザス州のシーマンハイスクールに入学しました。来年6月まで、ホームステイをしながら勉学に励みます。



▲左から、市長、紗夜さん、真由美さん、教育長

バスケットボール ふねひきバスケット女子が県大会で準優勝

8月3日、ふねひきバスケットボールクラブ女子の皆さんが市役所を訪れ、7月に郡山市で開かれた、第1回福島県U12サマーカップ選手権大会で準優勝したことを市長と教育長へ報告しました。

大会は、地区予選を勝ち抜いた16チームが出場し、トーナメントの頂点が争われました。同チームは準決勝まで順調に勝ち進み、決勝では二本松女子ミニバスケットボールスポーツ少年団と対戦し、惜しくも敗戦しましたが、準優勝というすばらしい成績を収めました。



地域おこし協力隊 佐久間朱妙^{あけみ}さんに委嘱状交付

7月16日、市役所で田村市地域おこし協力隊（地域振興型）委嘱状交付式が行われ、佐久間朱妙さんが就任しました。

地域おこし協力隊は、テラス石森を拠点に、移住・定住や空き家に関する相談・支援及び地域製品の磨き上げや魅力発信を行っています。

佐久間さんは田村市旧石森小学校の卒業生で、就任にあたり、「田村の土地に呼ばれた」と表現し、地元のニーズを探り、地元のために頑張っていきたいと今後の意気込みを語りました。



▲左から、協力隊を運営する（一社）Switchの久保田代表、市長、佐久間さん、副市長、総務部長

英語研修 サマーイングリッシュキャンプで中学生が英語に親しむ

7月24・25日、市役所でサマーイングリッシュキャンプ2021が開かれ、中学生34人が参加しました。

講師に市内の英語指導助手とオンラインで早稲田大学国際教養学部のサークル「セカクル」のメンバーを迎え、オリンピックをテーマにさまざまなプログラムを通して、積極的に英会話する姿がたくさん見られました。研修を通して英語に親しみ、自信を持つことができたようでした。



まちづくり協議会 満開のひまわりを思い浮かべ、苗1,800本植栽

7月25日、大越まちづくり協議会の会員20人が大越こども園側道と大越行政局駐車場にひまわりの苗1,800本を植栽しました。

夏の強い日差しの中、参加者全員が額に汗を浮かべ、お盆のころに満開に咲くひまわりの様子を思いながら植えました。



常葉振興公社 Fukuram（フクラム）カードで学生の産品開発などを応援

7月27日、株式会社田村市常葉振興公社が県内13市の外郭団体で初めて、Fukuramuカードの法人会員に加入しました。

Fukuramuカードはクレジット機能に加え、カード決済利用額の一部を県内の学校や学生が行う県産品の新商品開発活動などを応援するために創設された「ふくしまの未来を創るFukuram基金」へ拠出し、若者の産品開発や販路開拓に対し助成を行います。

今年度、助成を受けることができる団体に船引高校が選ばれています。



▲菅井友宏公社理事長（左）とカード推進協議会の中村伸裕委員